編集後記

今年度提出されたタルコフスキーについてのある卒業論文のなかで、著者の学生が映画 『ストーカー』から次のような詩句を引用していた。

「振動させ続けなさい/あなたの心に生じたその響きを/情熱と称するものは魂の力ではなくて/魂と外界の摩擦だ/気をいっぱいにして脆弱であれ/幼子のように弱くあれ/弱いことは偉大であり/強いことは無価値だ/人は生まれたときは弱くやわらかい/死ぬときは堅く干からびている/木は生長するとき/やわらかくしなやかだ/乾き堅くなると木は枯れる/堅さと強さは死の仲間だ/やわらかさと弱さはみずみずしさの表れだ/堅くなったものは勝つことがない」

(引用は言語文化学部福井舞子さんの論文による。福井さんは岡枝慎二氏による字幕から採ったとのこと。確認しない丸山の怠慢をお赦しいただきたい。)

詩句は老子の第七六章をもとにしたものであるという。どのような意味なのかは、皆目、 見当がつかないが、今号のテーマを設定したときにイメージしていたのはこのようなこと だったのではないかとも思った。映画はまた、技術の進歩は人間が本来自分で備えている べき能力を外部化し、人間を無能にしてしまったという。このような無能さは、詩句のな かで偉大だといわれる弱さとは別のものであるようだ。人工知能の長足の進歩により、い よいよ思考や判断をも外部化するわたしたちの姿は、しなやかでみずみずしい脆弱さから はずいぶんと隔たってしまったのかもしれない。わたし自身すでにかなり干からびている 自覚があるが、今回のように、無知のためにかえって学生から学ぶようなことも多く、そ のたびに少しづつ潤いをもらっているように感じる。

さいごになりましたが、今号の刊行にあたってお世話になった方々にお礼を申し上げたいとおもいます。原稿をお寄せいただいた先生方。編集委員の久野量一先生、前田和泉先生、野平宗弘先生。そして大変な実務作業をご担当いただいたスタッフのみなさま。みなさまのおかげで、今号を刊行することができました。本当にありがとうございました。

(丸山空大)

投稿規定

- 1. 『総合文化研究』は、東京外国語大学総合文化研究所の研究活動の成果ならびに所員の研究成果の発表のために、同研究所の責任において編集・刊行される。なお、本誌掲載の論文等に関しては著者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権及び公衆送信権については、著者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとし、本誌掲載論文等は同大学によって電子化・公開される。
- 2. 『総合文化研究』は原則として年度ごとに1号を発行する。同研究所は同誌発行のために編集委員会を置く。
- 3. 投稿は、同研究所の所員ならびに同研究所の研究活動に寄与した者が執筆した、未発表の論稿に限る。
- 4. 編集委員会は、必要に応じて外部の者に寄稿を求めることができる。
- 5. 内容区分は「特集論文」「自由論文」「随想・創作」「書評」「報告」とする。 「特集論文」: 特集テーマに沿った、執筆者自身による未発表の研究論文(10,000-20,000 字程度、英文要旨、 キーワード)。

「自由論文」: 特集テーマ以外の、執筆者自身による未発表の研究論文(10,000-20,000 字程度、英文要旨、 キーワード)。

「随想・創作」: 執筆者自身による紀行文、エッセイ、詩や小説等(20,000字以内)。

「書評」:書評・新刊紹介等(8,000 字程度)。

「報告」:同研究所で開催した講演会・シンポジウム等の報告(1,200-2,500字程度)。

- 6. 上記5つのカテゴリーのうち「特集論文」および「自由論文」は査読制とする。査読者による査読を経て、 最終的に編集委員会が掲載の可否について決定する。
- 7. 原稿は、横書きで後注とし、参考文献は本文の後に付すこと。なお、使用言語は特に制限しない。ただし、印刷の都合上、言語によっては、写真製版用完全原稿を要求することがある。
- 8. 写真・図表等は完全原稿とし、希望の大きさと挿入箇所を指定すること。
- 9. 投稿原稿は、返却しない。

Trans-Cultural Studies, Vol. 28 総合文化研究 第 28 号

2025年2月13日発行

責任編集 丸山空大

編集スタッフ 粟生田杏奈 安島里奈 大西達貴 カルロ・ストランジェス 田代智恵子 横山綾香

発行 東京外国語大学 総合文化研究所 〒 183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話 042-330-5409 Fax 042-330-5410

Web http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/

e-mail tufs.ics@gmail.com